

## 海上自衛官の働く姿を間近で護衛艦の体験航海に参加



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は5月20日（月）、護衛艦「いかづち」の体験航海に、大原法律公務員専門学校静岡校（静岡市）の学生25人を引率した。

この体験航海は、海上自衛隊横須賀基地（神奈川県横須賀市）から横浜市にある艦艇の修理地までの間で行われ、自衛隊に興味を持つ学生等に実際に護衛艦に乗ってもらうことで、艦艇の大きさや海上自衛官の職場環境を体感するとともに現場で働く隊員の姿を直に見て、自衛隊の任務やそのやりがいについて理解を深めてもらうと行われたもの。

学生たちが乗艦してみると、各乗組員それぞれの持ち場の出航準備を間近で見ることができ、出航の合図とともに横浜に向け舵を取った護衛艦と一体となった様子であった。

航海中は広い甲板や艦橋などを見学し、学生たちは艦艇の構造や制限された空間を効率的に使用していることに驚きの声を上げていた。また、航海員の仕事のひとつである「手旗信号」や「らっぱ吹奏」、そして隊員による制服や艦艇用の防火衣、作業衣などを身に纏ってランウェイを歩く、モデルさながらの海自ファッションショーも披露された。このショーでは隊員と記念写真を撮ることもでき、学生たちは現場で働く隊員との交流に感激していた。

体験航海後、学生たちは「艦の操舵を担う航海員をはじめ、それぞれの隊員には重要な役割があつて、護衛艦一隻の中にもたくさんの仕事があることを初めて知った」「仕事のやりがいや遠洋航海の経験談など、普段うかがい知ることのない貴重な話を聞くことができた」とこの度の航海を喜んでいった。

静岡地本は、今後も自衛隊の現場を直に感じることができるとなる機会を積極的に設け、自衛官という仕事の魅力を深く知ってもらうとともに、若者の将来の目標となるよう活動していく。

## 立派になった我が子を激励 防大静岡県家族会



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、6月2日（日）と3日（月）、神奈川県横須賀市において防衛大学校静岡県家族会が実施した「防大新入生・在校生激励会」を支援した。

同家族会は、毎年防衛大学校に入学した新入生を主に、家族との交流をはじめとする激励会を開催しており、併せて会員が自衛隊の任務への理解を深めるために横須賀近傍にある部隊研修を行っている。

激励会は、防大近くの観音崎京急ホテルで開催され、静岡県出身の新入生7人を含む23人の防大生と38人の家族が参加。辻村裕和家族会長の挨拶で和やかに開始された。

2年生から4年生は、同校での集団生活ならではの楽しい思い出や、規律正しい生活上の苦労話を交えた自己紹介で会を盛り上げたほか、新入生は春からの2カ月間を振り返りながら自身の成長ぶりを家族に自慢したりしていた。

また、激励会に参加した宮川本部長は、同校に教官として勤務していた当時を振り返りながら、約20カ国からの留学生との交流の重要性をはじめ、幹部自衛官としてあるべき姿の追及を伝え、これからの日本の防衛を担う学生にエールを送った。

参加した家族は、元気な課業行進の見学などから「我が子が防衛大学校に入学して本当に良かった。とても安心した」と話していた。

静岡地本は、学生と家族の交流等の取り組みを通じてさまざまな不安を払拭できるようサポートを続けていく。